

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1892400027		
法人名	社会福祉法人 若狭町社会福祉協議会		
事業所名	認知症対応型グループホーム五湖の郷		
所在地	福井県三方上中郡若狭町田井24-2		
自己評価作成日	平成 27年 8月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人活動をしながら、得意とする作業で施設内の装飾を季節に合わせて作っている。五湖の郷内の他事業所との交流を以前より大幅に増やし、定期的に開催するイベントのようなものや日常的に行き来できるご近所付き合いのようなものをめざして活動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山や湖・梅畑に囲まれ、福井梅の産地として農産業が盛んな若狭町西田地区に地域福祉の推進拠点として設置されている。小学校や保育所が隣接し、利用者の生活空間から子どもたちの姿が見えたり声が聞こえたりと、世代間交流がしやすい環境にある。県内初の共生型施設として認知症高齢者と障害者のケアホームを一体的に運営している。同敷地内に特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンターを併設し、施設間の交流があり、利用者は様々な人とふれあいながら地域の一員として生活していることが伺える。職員は運営理念である「共に生き共に暮らし共に働く」を念頭に、利用者が笑顔でその人らしく過ごせるように気持ちを汲み取るケアをめざし、職員一丸となって取り組んでいる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの運営指針等を確認しながら日々の業務にあたっている。大勢の中に居ても個々の時間を過ごせるよう、業務マニュアルを見直している	法人理念、施設理念、グループホーム理念があり、事業所理念は掲示している。「共に生き共に暮らし共に働く」の理念について職員間で振り返り、一人ひとりに合ったケアに向け実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する保育園・小学校との交流やボランティアや実習の受入をし、地域の行事への参加を心がけている	隣接する保育所は子どもたちと気軽に手を振りあえる距離にある。小学生との交流行事が多く、ボランティアや実習生の受け入れも行っている。地域の行事にも積極的に参加している。	子ども達との世代交流を継続する中で事業所の情報を発信したり、特性を活かした相談窓口を設けたりするなど、地域に向けた一層の取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとして現在は行なっていない。社協職員として、広報誌等を活用し認知症の理解につながるよう活動している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動・予定等の報告をし、意見を伺っている。五湖の郷全体のイベントや避難訓練等への関わり方等、季節行事にあわせ協力をお願いをする場にもなっている	運営推進会議は水害の後始末などで活発に行うことが出来なかった。活動報告や地域のニーズを聞く場として区長や民生委員などの参加のもと、地域の意見を聞いたり協力要請をしたりする場になっている。	定期的な運営推進会議で事業所の現状や取組みを報告し、具体的な話し合いがサービス向上に繋がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居判定委員会等の協力・制度に関する質問等、常に相談・助言を受けることが出来る	制度上のことなど随時相談するようにしている。情報交換をより活発に行うために地域包括会議に参加していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を回避するための最終的な方法として、短時間の施錠等全く身体拘束をしていないと言い切ることは出来ないが、見守りを業務に組み込むことで、拘束する必要のない状況にしている	「ちょっと待つて」を言わない介護を心がけている。利用者が事業所を出てしまうケースに対し、地域の協力がある。施錠することも話し合ったが、センサー使用や見守り体制等、個別に対応し、夜間のみ施錠している。拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会については持っていない 日々の業務の中でお互いに注意・確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが実施できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に現状報告をする機会・交流できる場を定期的に提供することで、相談しやすい事業所になるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施、入居者の状態を定期的にお知らせしながら意見をもらうよう声をかけている	計画書の中に家族のコメント欄を作ったりアンケートを配布したりしている。利用者の様子を広報誌と一緒に送付し、情報を伝え家族の意見を聞く機会を作るように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会での意見交換・日々の業務改善に向けての相談を行い、職員が納得して業務にあたれる様にしている	評価制度があり直接上司と話ができて、意見が言い易い。また職員にとって上司の地域への熱い思いを聞くことは刺激を受ける機会でもある。日常ではミーティングで個々の思いを聞き職員のモチベーションアップに心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所長が、現場に足を運び、職員・入居者に声をかけている 面談・評価を行い、相談をしやすい環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人評価の結果から、他事業所での研修を汲んだり、外部研修の案内を出している 必要に応じ内部研修を部署単位、また事業所単位で行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修への参加、同業者との交流目的の研修会の開催を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人にかかわる時間を作り、不安に思ったことや、不態になった原因等を記録・申し送りすることで、訴えの少ない方にも穏やかに過ごせる時間が提供できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みがあった時点から、定期的に関係者に連絡を取り、現状を確認しながら相談にのれるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネジャー等関わっている方から話を聞き、対応できるものがあれば利用につなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ってもらうことで、一緒に生活をしているという意識をもってもらえるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	交流会等の場で意見交換など、今後の生活のあり方について相談できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出等、希望する場所や人とのつながりを持ち続けられるよう支援している。地域行事や、敷地内他事業所へも出向いている	集落の人が集まり易い場所に出かけ、馴染みの人と会えるような機会を作るなど、関係が途切れないように支援している。家族との外出や故郷訪問をしたり、絵手紙や年賀状を出したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同室での座席、生活のレベル等お互いの関係が上手くとりやすい状況を作れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	顔を合わせる機会があれば積極的に声をかけるようにし、様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から要望を聞きだしたり、表情の確認をしながら思うような生活に近づけるよう支援している。家族に話を伺い、サービスの提供につなげることもある	地元の知り合いが多く、職員も利用者同士も馴染みがあり昔の情報をもとに個々に合わせて対応している。訴えの多い人には傾聴し、訴えの無い人には興味のあることを探し、若年性認知症の方から個別対応の必要性を学んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わってきた方にこれまでの生活の様子を聞くようにしている。本人との会話からも、思いつきとして聞くこともある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄、食事、バイタル等のチェックを含め、表情や言動の変化に気をつけ、「いつもと何か違う」ことを報告するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短時間だが毎日カンファレンスを行い記録を残し、職員間でサービスの統一を心がけている。様子が変わってくれば家族へ報告し、必要に応じて外部関係者と連携をとりながら支援している	担当制でアセスメントを行い、ケアマネジャーがケアプランを立てる。詳細にわたり意見を言い合い情報を共有し、統一したサービスを継続している。変更時は随時家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画を短期見直しでたて、評価をしながらサービスの提供に努めている。長期に及ぶ物はケアマネジャーへ引継いでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内他部署との交流の中で、一緒に外出をしたり、イベントに参加したりしている。なじみの活動や興味を持てることがあった場合に対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校・保育園と行き来しながら、季節に合った行事に参加している イベント的なボランティアに入ってもらうことで非日常名一日を送ることも出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医をそのまま継続している。受診には家族が対応しているが、書面にて近況報告等の連絡をしている。受診が難しい方には訪問診療を受けることに承諾をもらい、結果を報告している	かかりつけ医を継続し、家族の同行による受診で治療方針を決めてもらうが、専門病院へは職員が同席している。重度化した場合は家族了解のもと、訪問診療を依頼し、結果を家族に伝え状況を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の必要が疑われる時には、連携をとっている看護師に報告し、指示をもらっている かかりつけ医に相談し、受診につなげる場合もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の連携を取り、入居者の方の心身への負担が減らせるよう生活時間等の相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針について同意をもらっている 実際には経過を見ながら家族と相談し、必要な機関と連携をとっている	契約時に希望を聞くが、受診に家族が同席することで治療の方向性が共有し易く、随時経過に沿って相談しながら医療機関や施設を紹介するなど、連携をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、見直しを行なっている 訓練等の実施には至っていないが、今後起こりそうな事故を想定し、対応の相談をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2度（一度は夜間）避難計画をたて、避難訓練を五湖の郷事業所として行なっている 地域住民の協力を得るため、地域の防災訓練への参加を計画している	水害で消防署の指示のもと避難した経験があり、備蓄の必要性や緊急連絡網、自治体との連携の重要性を実感した。教訓をもとに個々の利用者の動きに合わせた避難計画を立て、地域の協力を得て防災訓練を行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が心がけている 会議等で声かけなど対応の仕方を振り返り、お互いの行動を注意できるような関係作りをしている	一人ひとりが違った思いを持っていることを尊重し、希望を聞きながら対応しており、職員間で注意し合える環境である。日ごろから丁寧な声かけや言葉遣いに気をつけ合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示のある方からは直接希望を聞き取り、難しい方には選択肢を定時させてもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、個別対応の時間を確保したり、体調や天気に合わせて活動を決めることの出来る余裕を持ちようとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては出来ている 着る洋服の選択してもらえよう声かけをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	部分的な調理、片づけを一緒に行なっている イベント感覚で食事作りや外食も行なっている	得意な漬物をみんなで漬けるなど、臨機応変におやつや行事食を変更している。食事作りや片付けを一緒に行っており、それがコミュニケーションの場となっている。希望があれば寿司など外食にも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副菜については栄養士の管理を行なっている 残食チェック・定期的な体重測定等でも食事の管理をしている 水分はこまめに、嗜好品の提供等楽しみのひとつとして摂ってもらえている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、支援を行なっている 歯科医からの研修等を受け、必要なケアを行なえるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて誘導をしている 使用オムツを減らせるようカンファレンス等を行なっている	さりげなく誘導することで排泄拒否に対応している。随時職員間で個人の排泄支援方法を統一している。また、変更時はカンファレンスで確認し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをし、服薬等の調節をしたり、トイレに座る時間の確保や水分摂取に気をつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日時は決まっている 要望・必要に応じ変更をすることも度々ある	一人ずつ個浴で対応している。拒否のある人は無理強いせずに様子を見ながら働きかける。希望があれば併設のデイサービスセンターや施設の浴槽で馴染みの人と入浴するなど、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤等の服薬時間の調整、夕方からは落ち着いた雰囲気になるよう明るさや音に配慮している 日中の活動にも工夫をし、適度な運動を行なえるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から必要なものについては申し送りがあり、投薬カートやチェック表で誤薬の無い様確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大まかな個人の一日の流れをたててあり、何もせず過すことの無い様支援している 慣れ親しんだものの調査や日常の中で興味を持ったことを申し送り、余暇活動にあてている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望が少ないため、施設側から提供する形で外出につなげている 地域の行事ごとにも参加できるようにしている	地域の行事に参加することで、地域や家族と交流できる。イベントに参加し、普段行けないところに行き、馴染みの人に会えると喜ばれている。法人内の施設への外出も知人に会えると、好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額は施設管理となっている。家族の意向や本人の希望で本人管理として手元に置かれている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持、公衆電話の利用、郵便物の預かり等の補助を行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除、整理整頓を実施 季節に合わせた壁面の装飾を入居者と共に作っている。野菜や花を庭で育てている。	大きな窓から広い中庭が見え、気分が安らぐ。花壇で旬の野菜や花を育てている。隣に保育所があり園児の声や走る姿が見え、人の行き来や草花が心を和ませている。室内は明るく、利用者とともに作った作品が季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ活動を全体ですることはあまりなく、個々の判断で生活している ソファやベンチに座り思うような時間を過ごせている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、希望に応じ持込が出来る 殺風景にならないよう趣味にあった装飾を一緒に出来るようにしている	装飾品は手作りで、個人の部屋には家族の写真や私物が置かれている。部屋にはそれぞれの好みで暖簾が掛けてあり、さりげなくプライバシーを守る配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートを自分で作ったり、人に尋ねなくても方向が分かるよう案内板を出す等の工夫をしている 時間を確認しながらも穏やかに、適せるな誘導が出来るよう心がけている		